

# 福島の水産物、食べて支援

## がん社会 を診る

中川 恵一

福島第1原子力発電所の多核種除去設備（ALPS）処理水の海洋放出が始まりました。

東京電力は、トリチウム以外の放射性物質を国の定めた放出基準以下とし、ALPSでも取り除けないトリチウムも安全基準の40分の1未満まで薄めて海洋に放出するとしていました。実際のトリチウム濃度は、安全基準の3〜4百分の1近くまで希釈されていることが確認されています（8月26日時点）。放出地点

から2〜3キロ離れると濃度は周辺の海水と同程度になることも分かりました。

放出された水を毎日2リットル飲み続けても年間の被ばく量は自然被ばく（約2ミリシーベルト）の千分の1余りですから、全く問題にはなりません。飛行機で東京とニューヨーク間を往復すると0.1ミリシーベルトは被ばくしますから、海洋放出の影響の小ささが分かります。

トリチウムが出すベータ線が到達できる距離（飛行機は

平均で0.6キロ、最大でも100万分の1）は、最大でも6キロ程度です。細胞の大きさは約10キロメートルですから、核の中のDNAへの影響はほとんどありません。海洋放出が環境や人体に与える影響は無視できるレベルといえます。

国際原子力機関（IAEA）も海洋放出にはお墨付きを与えています。IAEAのレビューチームは世界11カ国の専門家から構成され、その中には中国の原子力専門家も含まれています。チームは2年にわたり何度も訪日し、6つの報告書を発表するなど丁寧にレビューを実施しています。

海洋放出の環境への影響は無視でき、国際的な基準に合致している、と最終的な報告書でまとめています。

しかし放出が始まった8月24日、中国政府は日本産の水産物の輸入を全面的に停止と

すると発表しました。香港も中国に追随して福島など10都県産の水産物の禁輸を決めました。22年の水産物輸出額は前年比3割増の3873億円で、中国は871億円、香港は755億円を占めますから、影響は甚大です。

中国の原発も大量のトリチウムを海洋放出しています。21年の放出量は広東省・陽江原発で約112兆ベクレル、福建省・寧徳原発で約102兆ベクレル、遼寧省・紅沿河原発は約90兆ベクレルに上ります。福島第1原発の放出総量は年22兆ベクレル未満に抑える計画ですから、科学的議論だけで簡単に解決する問題でないことが分かります。

私たちがまずできることは国内での風評被害を広げないことです。そして科学的で透明性のある情報を国際社会に広く発信し続けることが、なにより大切だと思います。私も福島の水産物を食べて漁業者らを応援したいと思います。

（東京大学特任教授）

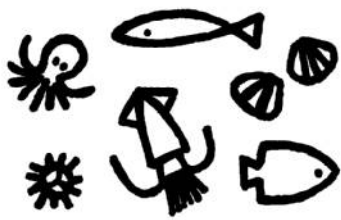


イラスト 中村 久美